

週間火山概況 (平成 20 年 5 月 30 日 ~ 平成 20 年 6 月 5 日)

気象庁地震火山部

いずれの火山も予報警報事項に変更はない。

6月5日現在の火口周辺警報、噴火警報及び噴火予報等の発表状況は以下のとおり。

火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）

桜島

火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）

三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島

火口周辺警報（火口周辺危険）

硫黄島

噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報

福徳岡ノ場

噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）

樽前山、北海道駒ヶ岳、岩手山、吾妻山、草津白根山、浅間山、御嶽山、富士山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山(御鉢、新燃岳)、口永良部島

噴火予報（平常）

上記以外の火山



図1 火口周辺警報及び噴火警報発表中の火山の噴火警戒レベル等の状況(6月5日現在)

噴火警戒レベルには、レベル毎に防災機関等の行動がキーワードとして示されており(本概況末の対応表参照)、導入にあたっては、噴火警戒レベルの活用が地域防災計画等に定められることが条件となる(現在、噴火警戒レベルを導入している火山は18火山である)。

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

みやげじま

三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

噴煙高度は火口縁上概ね300mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

今期間、火山ガス放出量の観測を行わなかったが、三宅村によると山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

三宅島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口周辺では噴火に対する警戒が必要である。また、風下にあたる地区では火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には泥流にも注意が必要である。

いおうとう

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過している。国土地理院の観測によると、島全体が大きく隆起する地殻変動は、2008年5月に入って停滞している。

硫黄島では引き続き火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では噴火に対する警戒が必要である。

ふくとくあかのば

福德岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

今期間観測は行われなかった。なお、これまでの海上保安庁、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測では、福德岡ノ場付近の海面に、火山活動によるとみられる変色水が確認されている。

福德岡ノ場では小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

さくらじま

桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

昭和火口では、5月30日から6月1日にかけて噴火が発生したほか、ごく小規模な噴火も時々発生した。このうち6月1日には爆発的噴火が発生し、噴煙が火口縁上2000mに達し、6合目（昭和火口からの水平距離は概ね350～500m）まで大きな噴石¹⁾の飛散が確認された。火砕流の発生はなかった。6月3日以降の夜間、高感度カメラ²⁾で捉えられる程度の微弱な火映が観測された。

今期間、南岳山頂火口では噴火は発生しなかった。

火山性地震は少ない状態が続いている。

国土地理院のGPS観測によると、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が続いている。

桜島では、活動が活発化するおそれがあるので、南岳山頂火口及び昭和火口から2km程度の範囲で大きな噴石及び火砕流に引き続き警戒が必要である。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき³⁾）に注意が必要である。降雨時には泥流や土石流に注意が必要である。

- 1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、それより小さく風の影響を受ける噴石は、例えば「風の影響を受ける小さな噴石」という表現を用いる。
- 2) 九州地方整備局大隅河川国道事務所の黒神河原上流設置カメラ等による。
- 3) 桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

さつまいおうじま

薩摩硫黄島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

火山性地震はやや多い状態が続いている。天候不良のため硫黄岳山頂火口の噴煙の状況は確認できなかった。

薩摩硫黄島では硫黄岳山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口周辺では噴火に対する警戒が必要である。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

今期間、噴火は観測されなかったが、長期にわたり噴火を繰り返している。
火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では今後も御岳^{おたけ}火口から半径約1 kmの範囲に大きな噴石¹⁾を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要である。

上記以外の火山では、火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ）噴火の兆候はみられない。

【参考】 噴火警報と噴火警戒レベル等の対応表

警報・予報	噴火警戒レベルとキーワード	噴火警戒レベルを導入していない火山に対するキーワード [*]
噴火警報	レベル5（避難）	居住地域嚴重警戒 ^{**}
	レベル4（避難準備）	
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	入山危険
	レベル2（火口周辺規制）	火口周辺危険
噴火予報	レベル1（平常）	平常

^{*} 海底火山に対しては、噴火警報（周辺海域）にキーワード「周辺海域警戒」を付して発表する。

^{**} 居住地域が不明確な場合は「山麓嚴重警戒」と記載する。